



第2節 北九州市役所の地球温暖化対策

1. 市役所の二酸化炭素総排出量

平成20年度（2008年度）の市役所における二酸化炭素総排出量は227千トンと推計されています。基準年度である平成14年度（2002年度）と比べ、ごみ処理量の減少とともに容器リサイクルプラスチックの分別収集により廃プラスチック焼却分からの二酸化炭素が大幅に減少し、半分以下を達成しています。合計量では約26%削減していますが、施設の新設や学校への冷暖房の導入、市民センター及び病院等の施設の利用率の増大などにより、市民利用施設では増加しています。

◆市役所における二酸化炭素排出量(千トン-CO₂/年)

施設	区分		H14年度 (2002)	H20年度 (2008)	二酸化炭素 増減率
	部門	例			
施設	オフィス	本庁舎、区役所・出先機関などの施設	18	17	-6%
	市民利用施設	市民が利用する学校、市民センター、保健福祉などの施設	55	68	+13%
	市民サービス事業	市民に対するサービスを提供する病院、交通、消防施設	24	23	-4%
	生活基盤インフラ	ごみ焼却工場、浄化センター(下水処理場)、浄水場等のプラント系施設	79	79	±0%
廃プラスチック焼却			185	82	-56%
売電分			-53	-42	+9%
計			308	227	-26%

2. 市役所の地球温暖化対策

(1) 主な取組内容

【① 省エネルギーなどエコオフィスの取組】

- 不要な照明はこまめに消灯をする。
- 使用していない電気製品・器具の電源をこまめに切る。
- 室内を適正な温度に保つ。
- 空調設備の維持管理を適正に行う。設備の更新時に、高効率・省エネ型機器を購入する。
- こまめな節水を行う。
- ごみの減量やリサイクルを行う。

【② グリーン購入】

- 古紙配合率の高い製品、エコマークやグリーンラベルの付いた製品を優先的に購入する。

【③ 公用車における環境配慮】

- エコドライブを徹底する。
- 天然ガス自動車等のクリーンエネルギー自動車を含む次世代自動車の導入を推進する。H21実績：40台
(天然ガス自動車34台、電気自動車1台、ハイブリッド自動車1台、水素燃料電池自動車1台、ハイブリッド塵芥車3台)



電気自動車



水素燃料電池自動車



ハイブリッド塵芥車

【④ 市役所の新エネルギー対策】

- 太陽光発電等の新エネルギーを導入する。
H20までの実績：H10 紫川水源地 150kW、H12 学術研究都市 150kW、H17～18 自然史・歴史博物館 160kW、小中学校 18校分ほか
H21の実績：勝山橋太陽光発電ルーフ 20kW、北九州エコハウス 2kW、水道局配水池 4箇所×10kW、小中学校 61校分ほか



勝山橋太陽光発電ルーフ



北九州エコハウス



水道局配水池

【⑤ 市役所の省エネルギー対策】

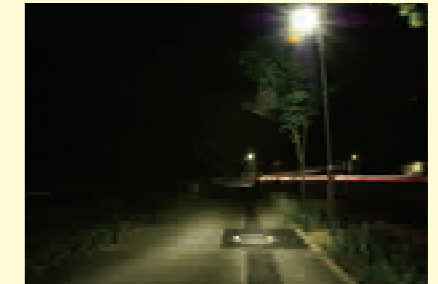
- LED等の省エネルギー機器を導入する。
H21のLED導入実績：市役所本庁舎、道路(徳力葛原線)ほか



本庁舎玄関庇へのLED導入



勝山橋太陽光発電ルーフへのLED導入



道路(徳力葛原線)へのLED導入

【⑥ その他の取組】

- 市営バス：エコドライブを徹底し、燃料使用量削減を推進する。(若松営業所、向田営業所)
- 病院：コージェネレーションシステムを導入し、エネルギーの高効率化を図る。
(H19 医療センター 400kW×2 (ESCO事業で更新)、H12 門司病院 150kW×2、H14 若松病院 110kW×2)
- 消防：フロン類を用いた消火設備・機器の適正管理を徹底する。
- ごみ：ごみ発電、熱供給を推進する。
(H19 新門司工場 23,500kW、H3 日明工場 6,000kW、H10 皇后崎工場 36,300kW)
- 上下水道：ポンプなどの台数制御、インバータ制御化を図る。